2016 年 10 月発行
株式会社ひとまち（第１版）　htt://wbmf.info

ホワイトボード・ミーティング®　ベーシック（３級）検定試験
筆記試験問題集①

以下の（　）にあてはまる言葉を書きなさい。

① ホワイトボード・ミーティング®の特徴

１　ホワイトボード・ミーティング®は、（1）年に（2）が開発した会議の技法です。進行役を（3）、参加者を（4）と呼びます。

２　ホワイトボード・ミーティング®は、会議室にある（5）を使って、参加者の意見やアイデアをあつめる（6）的（7）的な会議の進め方です。話し合いに（8）→（9）→（10）のプロセスをつくります。ホワイトボードマーカーの色をわけて書くのが特徴で（8）は（11）色→（9）は（12）色→（10）は（13）色と定められています。

３（8）では、とくに（14）という技術をつかい、深い情報共有をめざします。６つの基本会議フレームがあり、熟練すると組みあわせて（15）をしながら会議を進めることで、合意形成や課題解決をはかります。６つの基本会議フレームは以下の通りです。（16）会議、（17）会議、（18）会議、（19）会議、（20）会議、ホワイトボードケース会議。

（1）	（2）	（3）	（4）
（5）	（6）	（7）	（8）
（9）	（10）	（11）	（12）
（13）	（14）	（15）	（16）
（17）	（18）	（19）	（20）

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P14～P15 参照

②ホワイトボード・ミーティング®　基本的な考え方

1　人生を（1）、（2）しながら自分らしく生きることは、私たちの（3）が尊重される最もシンプルなスタイルです。

2　（4）を温めて、私たちひとり一人が、本来もつ力を発揮して（1）、（2）しながら自分らしく生きることを（5）といいます。（4）はいろんなもので温まったり、冷えたりしますが、一番、大きな影響力をもつのは（6）です。

3　私たちは（4）が冷えてくると、無意識のうちに周囲に対して「温めにくい行動」をとります。これを（7）行動や（8）行動と呼びます。これらの行動動機は（9）です。私たちは（6）の状態が悪くなり（10）が積み重なると、（9）が高くなり、（11）な行動を繰り返します。

4　ファシリテーターはこれらの行動が起こる集団の状況を（12）し、良好なコミュニケーションで（13）しあう関係づくりを進めます。

5　ホワイトボード・ミーティング®は、どんな意見も（14）せずにファシリテーターが書いて意見を（13）します。誰もが発言できる（15）な場作りを進めます。

6　2 人以上が集まる場所では、（16）と（16）の対立を繰り返します。ファシリテーターがいる場所は良好なコミュニケーションで対立を乗り越え、新しい仕組みや文化、解決方法を作ります。

7　これまでの会議や学びは、（17）が一般的でした。一方、ファシリテーターのいる場はらせん状の（18）の組織づくりを進めます。組織の運営や学びの場には、（17）と（18）の両方が必要で、（18）で進めると（17）の（19）も（20）するのが特徴です。

（1）	（2）	（3）	（4）
（5）	（6）	（7）	（8）
（9）	（10）	（11）	（12）
（13）	（14）	（15）	（16）
（17）	（18）	（19）	（20）

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P16～P19 参照

③ファシリテーションの基礎

1　一人ひとりの意見が活かされる良い会議は、（1）・（2）の割合で活躍しながら進みます。ホワイトボード・ミーティング®では、（3）がファシリテーションスキルを身につけて、いつでも役割交代できることをめざします。

2　ファシリテーションには以下の６つの技術があります。（4）（5）（6）（7）（8）（9）。

3　会議で発言しにくいときは、（10）で（11）を下げて、小さな対話をたくさん育みます。

4　ホワイトボード・ミーティング®（12）に記載された（13）のオープン・クエスチョンで、第４階層の情景が（14）で共有されることをめざします。（12）に記載されたオープン・クエスチョンは、ファシリテーターの（15）です。

5　ファシリテーターは（16）の態度で意見を聞き、大きな声も小さな（17）も拾います。言葉じりやニュアンスも大切にして書きます。最終的に誰の意見かわからなくなるように（18）を外し、みんなの意見として書きます。

6　進め方がわからない時は、（19）に素直に相談します。（19）は協力します。

7　ファシリテーションは（20）なので、練習すればするほど上手になります。

（1）	（2）	（3）	（4）
（5）	（6）	（7）	（8）
（9）	（10）	（11）	（12）
（13）	（14）	（15）	（16）
（17）	（18）	（19）	（20）

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P20～P31 参照

④コミュニケーショントレーニング

1　会議の途中で意見が出にくくなったら（1）をします。良好なコミュニケーションは、学びを深め、個人や組織の成長を促進します。しかし、良好なコミュニケーションは（2）はしません。組織がスタートしたら、会議の場面以外でも最初に作戦をたて、良好なコミュニケーションを育む（3）を作ります。

2　初期は（4）、（5）、（6）を（7）人とチャレンジし、コミュニケーションの（8）を増やします。中期以降は（9）、（10）、（11）を（12）とでもOKになることをめざし、コミュニケーションの（13）を高めます。（下線部はテキストに記載なし）

3　人と組織が成長する（14）の法則は、第1段階「まずは（15）にする」→第2段階「（16）を積み重ねる」→第3段階「（17）にチャレンジする」の順番で進めます。

4　ホワイトボード・ミーティング®の練習も（14）の法則で進めます。いきなり大きな会議でチャレンジすると失敗します。まずは（18）3～4人で集って練習会をスタートします。簡単なテーマで練習会を繰り返し、仲間を増やし、（19）を身につけてから（20）でホワイトボード・ミーティング®を使うなど（14）の法則でプロセスを作ります。

（1）	（2）	（3）	（4）
（5）	（6）	（7）	（8）
（9）	（10）	（11）	（12）
（13）	（14）	（15）	（16）
（17）	（18）	（19）	（20）

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト　P22～P23 参照

ホワイトボード・ミーティング®　ベーシック検定試験
筆記試験問題集①

以下の（　）にあてはまる言葉を書きなさい。

①ホワイトボード・ミーティング®の特徴

1　ホワイトボード・ミーティング®は、（1）年に（2）が開発した会議の技法です。進行役を（3）、参加者を（4）と呼びます。

2　ホワイトボード・ミーティング®は、会議室にある（5）を使って、参加者の意見やアイデアをあつめる（6）的（7）的な会議の進め方です。話し合いに（8）→（9）→（10）のプロセスをつくります。ホワイトボードマーカーの色をわけて書くのが特徴で（8）は（11）色→（9）は（12）色→（10）は（13）色と定められています。

3 （8）では、とくに（14）という技術をつかい、深い情報共有をめざします。6つの基本会議フレームがあり、熟練すると組みあわせて（15）をしながら会議を進めることで、合意形成や課題解決をはかります。6 つの基本会議フレームは以下の通りです。（16）会議、（17）会議、（18）会議、（19）会議、（20）会議、ホワイトボードケース会議。

（1） 2003	（2） ちょんせいこ	（3） ファシリテーター	（4） サイドワーカー
（5） ホワイトボード	（6） 効率的	（7） 効果的	（8） 発散
（9） 収束	（10） 活用	（11） 黒	（12） 赤
（13） 青	（14）オープン・ クエスチョン	（15） プログラムデザイン	（16） 定例進捗
（17） 役割分担	（18） 企画会議	（19） 情報共有	（20） 課題解決

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P14～P15 参照

②ホワイトボード・ミーティング®　基本的な考え方

1　人生を（1）、（2）しながら自分らしく生きることは、私たちの（3）が尊重される最もシンプルなスタイルです。

2　（4）を温めて、私たちひとり一人が、本来もつ力を発揮して（1）、（2）しながら自分らしく生きることを（5）といいます。（4）はいろんなもので温まったり、冷えたりしますが、一番、大きな影響力をもつのは（6）です。

3　私たちは（4）が冷えてくると、無意識のうちに周囲に対して「温めにくい行動」をとります。これを（7）行動や（8）行動と呼びます。これらの行動動機は（9）です。私たちは（6）の状態が悪くなり（10）が積み重なると、（9）が高くなり、（11）な行動を繰り返します。

4　ファシリテーターはこれらの行動が起こる集団の状況を（12）し、良好なコミュニケーションで（13）しあう関係づくりを進めます。

5　ホワイトボード・ミーティング®は、どんな意見も（14）せずにファシリテーターが書いて意見を（13）します。誰もが発言できる（15）な場作りを進めます。

6　2 人以上が集まる場所では、（16）と（16）の対立を繰り返します。ファシリテーターがいる場所は良好なコミュニケーションで対立を乗り越え、新しい仕組みや文化、解決方法を作ります。

7　これまでの会議や学びは、（17）が一般的でした。一方、ファシリテーターのいる場はらせん状の（18）の組織づくりを進めます。組織の運営や学びの場には、（17）と（18）の両方が必要で、（18）で進めると（17）の（19）も（20）するのが特徴です。

（1） 自己選択	（2） 自己決定	（3） 基本的人権	（4） 「心の体力」
（5） エンパワメント	（6）日常の コミュニケーション	（7） 愛情確認	（8） 承認欲求
（9） 不安	（10） 失敗体験	（11） 不穏	（12） アセスメント
（13） 承認	（14） 要約	（15） 安心・安全	（16） 権利
（17） トップダウン	（18） ボトムアップ	（19） クオリティ	（20） アップ

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P16～P19 参照

③ファシリテーションの基礎

1　一人ひとりの意見が活かされる良い会議は、（1）・（2）の割合で活躍しながら進みます。ホワイトボード・ミーティング®では、（3）がファシリテーションスキルを身につけて、いつでも役割交代できることをめざします。

2　ファシリテーションには以下の６つの技術があります。（4）（5）（6）（7）（8）（9）。

3　会議で発言しにくいときは、（10）で（11）を下げて、小さな対話をたくさん育みます。

4　ホワイトボード・ミーティング®（12）に記載された（13）のオープン・クエスチョンで、第４階層の情景が（14）で共有されることをめざします。（12）に記載されたオープン・クエスチョンは、ファシリテーターの（15）です。

5　ファシリテーターは（16）の態度で意見を聞き、大きな声も小さな（17）も拾います。言葉じりやニュアンスも大切にして書きます。最終的に誰の意見かわからなくなるように（18）を外し、みんなの意見として書きます。

6　進め方がわからない時は、（19）に素直に相談します。（19）は協力します。

7　ファシリテーションは（20）なので、練習すればするほど上手になります。

（1） ファシリテーター3	（2） サイドワーカー7	（3） 参加者全員	（4） インストラクション
（5） クエスチョン	（6） アセスメント	（7） フォーメーション	（8）グラフィック＆ ソニフィケーション
（9） プログラムデザイン	（10）　ペア・ コミュニケーション	（11） 参加のハードル	（12） 質問の技カード
（13） 9つ	（14） 動画モード	（15）ニュートラル ポジション	（16） 好意的な関心
（17） つぶやき	（18） 意見の帰属	（19）参加者 （サイドワーカーも可）	（20） 技術

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキスト Basic３級　P20～P31 参照

④コミュニケーショントレーニング

1　会議の途中で意見が出にくくなったら（1）をします。良好なコミュニケーションは、学びを深め、個人や組織の成長を促進します。しかし、良好なコミュニケーションは（2）はしません。組織がスタートしたら、会議の場面以外でも最初に作戦をたて、良好なコミュニケーションを育む（3）を作ります。

2　初期は（4）、（5）、（6）を（7）人とチャレンジし、コミュニケーションの（8）を増やします。中期以降は（9）、（10）、（11）を（12）とでもOKになることをめざし、コミュニケーションの（13）を高めます。（下線部はテキストに記載なし）

3　人と組織が成長する（14）の法則は、第1段階「まずは（15）にする」→第2段階「（16）を積み重ねる」→第3段階「（17）にチャレンジする」の順番で進めます。

4　ホワイトボード・ミーティング®の練習も（14）の法則で進めます。いきなり大きな会議でチャレンジすると失敗します。まずは（18）3～4人で集って練習会をスタートします。簡単なテーマで練習会を繰り返し、仲間を増やし、（19）を身につけてから（20）でホワイトボード・ミーティング®を使うなど（14）の法則でプロセスを作ります。

（1） ペア・コミュニケーション	（2） 自然発生	（3） プロセス	（4） 明るく
（5） 楽しい（楽しく）	（6） 浅い話	（7） いろんな	（8） 量
（9） 辛い（辛くて）	（10） 悲しい	（11） 深い話	（12） だれ
（13） 質	（14） エンパワー	（15） 失敗ゼロ	（16） 小さな成功体験
（17） 大きな飛躍	（18） 気軽な仲間	（19） 技術	（20） 実際の会議

ホワイトボード・ミーティング®検定試験公式テキストBasic3級　P22～P23参照